

香港・台湾における「Progressive Social Work Network」の動向
 —「亜州社会工働論壇 (Progressive Social Work Forum)」への参加を通して—

○ 大谷大学 中野 加奈子 (7013)

伊藤 文人 (日本福祉大学・3744)

進歩的ソーシャルワーク／ソーシャルアクション／反資本主義運動

1. 研究目的

わが国では2000年の介護保険制度の施行以降「ケアマネジメント」が政策的に導入され、介護支援専門員（ケアマネージャー）が創設された。しかし、特別養護老人ホーム入所要件が要介護3以上とされたり、要支援利用者の家事援助が介護保険サービスから切り離され地域ボランティアが担うことになるなど、増え続ける介護費用の削減を目的としたサービスが実行されると、ケアマネージャーはケアのコントロール（統制）を担う「ゲイトキーパー（門番）」と化した。これはケアマネージャー個人の良心の問題ではなく、制度・政策が構造的に創造した状況といえる。こうした背景の下、ソーシャルワーカーたちは「これまで学んで来たソーシャルワークを実践できているのか？」という疑問を抱き始めている。例えば、検察庁への社会福祉士配置をめぐり、社会福祉士が職能団体に質問状を届けるといったアクションを起こしたりしている。しかしながら、実践に関わる要求運動をソーシャルワーカー自身に取り組むことは、これまで数少なかったのではないかな。

本報告では、香港・台湾の事例を取り上げ、近年の動向と今後の展開、東アジア諸国の一つであるわが国がこうした国際的ネットワークに参入し、ソーシャル・アクションを展開する可能性について検討を行う。

2. 研究の視点および方法

2015年に香港で、2017年には台湾で開催された「Progressive Social Work Forum（進歩社会工働論壇）」を取り上げ、フォーラム開催の背景にある社会状況、フォーラムの概要整理を行い、ソーシャルワーカーが自らの問題状況に対するソーシャル・アクションを行う意義、その他の社会運動との関連性などの視点から考察を行う。

3. 倫理的配慮

本報告は、社会福祉学会「研究倫理指針」に基づき倫理的配慮を行っている。具体的には理論整理については、先行研究論文、引用文献を明示し、フォーラムでの発言内容については個人が特定されないよう匿名化するなど配慮を行っている。

4. 研究結果

イギリスでは、グローバル経済の下で新自由主義的なマネジメントが導入される中で

「ソーシャルワークの本質が変容させられ、ソーシャルワークの価値が弱体化している」と危惧する研究者、学生、ソーシャルワーカー、サービス利用者が「The Social Work Action Network: SWAN」を結成した。このSWANは、反資本主義運動のスローガン「もう一つの世界は可能だ！」にならい、「もう一つのソーシャルワークは可能だ！（Another social work is possible!）」という考えの下で、「ソーシャルワーク・マニフェスト」を発表するなどし、貧困、差別、不平等といった問題へのアクション運動を展開している。

SWANの活動に対して、自国の状況も類似していると考えた香港・台湾のソーシャルワーカーたちも「Progressive Social Work Network」を形成し、2015年に香港で、2017年には台湾で、東アジア各国のソーシャルワーカー、研究者、学生、サービス利用者が参加する「Progressive Social Work Forum（進歩社会工作論壇）」を開催し、サービス利用者が直面する問題状況や、ソーシャルワーカーが抱える政策と生活問題の諸矛盾について議論を展開した。このフォーラムでの論点は、1) グローバリゼーションの展開・大資本による「開発」と地域崩壊、それに伴う市民生活の破壊とソーシャルワーク、2) 新自由主義的な社会保障・社会政策下でのソーシャルワークの問題点、3) ソーシャルワーカー養成教育で学ぶ理論と実践の関係性、4) ソーシャルワーカーの業務過剰負担と実践の質の低下、5) 家父長制などの東アジアが有する家族主義の中での利用者・家族支援のあり方、などとなっていた。ディスカッションは、明確な「解決策」を得ることはもちろん、理論の再確認や、問題状況の共有など対話を重視した内容で展開された。また、このフォーラムでの国際交流を契機に、2018年3月の世界ソーシャルワークデーにおいて「アジア進歩的ソーシャルワーク宣言 2018」を発表するに至った。

5. 考察

「Progressive Social Action Forum」の動向から学ぶ点は、以下に整理できる。

- ① グローバリズムによる政治・経済がソーシャルワークへ及ぶ影響と自らの実践の関係性を理解し、現在の社会保障・社会福祉政策の下で期待されるソーシャルワーカーの役割と、これまで構築されてきたソーシャルワーク理論との乖離の認識を持つこと
- ② ソーシャルワーカーが自らの「言葉」を持ち、諸矛盾の言語化を図ること
- ③ 研究者・学生・ソーシャルワーカー・サービス利用者の協働を築き上げること

参考文献：

伊藤文人（2007）「ソーシャルワーク・マニフェストイギリスにおけるラディカル・ソーシャルワーク実践の一系譜」日本福祉大学社会福祉学部・日本福祉大学福祉社会開発研究所『日本福祉大学福祉論集』第116号

イアン・ファergusン著/石倉康次・市井吉興監訳『ソーシャルワークの復権 新自由主義への挑戦と社会正義の確立』（2012）クリエイツかもがわ